

平成 2 9 年 度 事 業 計 画

社会福祉法人淳風会

ケアハウスグリーンヒル淳風

訪問介護・介護予防訪問介護

通所介護・介護予防通所介護

移動支援・居宅介護支援事業

第六中学校区地域包括支援センター

[1]施設運営方針

「明るく すこやかな やすらぎのある人生」をモットーにし、お一人おひとりにあったケアを考え、ご入居者及び地域に方々に、安全かつ安心して安らぎのある生活のお手伝いができる環境づくりに取り組みます。

[2]今年度の目標

平成 29 年度は下記を重点目標として活動する。また、これまで取り組んできた「セーフティネット施設グリーンヒル淳風と呼ばれるための取り組み」は評価し継続を要するものは継続する。

1. 社会資源としての施設の活用

地域の方々が何を必要としているかをデイ運営推進会議での校区福祉員や民生委員との会話や鍵預かり事業で地域の集まりに参加する機会などで聞きだしケアハウスとして何ができるかを考えたい。平成 28 年度に「気軽に元気アップ講座」を施設食堂にて開催した。社協からは日曜日に子育てサロンの開催場所として食堂を貸してくれないかと言う相談もあった。平成 29 年度も主催であれ場所の提供であれ積極的に施設を開放していくことで地域に貢献したい。

2. 適正な仕事量、環境の整備

特定の事業所、決まった職員の時間外勤務が多い現状がある。一つの事業所で事務員を抱えることは経営上難しいが各事業所の事務作業の軽減、文書管理を目的に事務員の雇用を考えたい。時間外勤務を減らし気持ちに余裕を持つことが不祥事を起こさない環境づくりになると考える。

I. ケアハウス

① 安定した稼働のための待機者確保

- ・平成 29 年度も稼働率 98%（49 名/月）以上を目標とする。
- ・地域サロンで関わる方々、平成 28 年度に実施した気軽に元気アップ講座の参加者など関わりを持った方々に施設見学会を行うなど安定した稼働状態を保つための待機者確保に努める。

② 入居者支援の向上と書類整理

- ・専門職員が目標に応じた外部研修に参加することによってスキルアップを図る。
- ・入居者個別ファイルは完成したので、間違いなく更新をしていく。
- ・ケアハウス入居者、デイ利用者の生き甲斐作りの一つとしてデイ隣接地に農園を作り草花や農作物を作りたい。

③ 地域貢献にむけた活動の拡充

- ・ 中間的就労支援、家庭裁判所からの宿泊型職場体験を継続して受け入れる。
- ・ 鍵預かり事業については、実績が1名と市内で一番少ないため周知に努め1件でも増やすよう活動する。
- ・ 地域合同の防災訓練やイベントに積極的に参加すること、平成28年度に行った気軽に元気アップ講座のような施設を利用して講座や研修を行いたい。

II. 訪問介護

① 目標数字

- ・ 月平均サービス提供時間を
4～6月 1300時間 (契約者数 115名)
7～9月 1350時間 (契約者数 120名)
10～3月 1400時間 (契約者数 125名) とする。

② 介護予防・日常生活支援総合事業移行への課題分析と取り組み

- ・ 介護予防・日常生活支援総合事業が始まり単価が下がることに対応するため契約者を増やすことで安定したサービス提供時間を確保する。
- ・ 介護予防・日常生活支援総合事業に移行するために生じる問題を訪問介護に求められる課題と捉え、ご利用者自身が行えることを一つでも増やすように自立支援を行っていく。

③ 人材確保と体制強化

- ・ サービス提供責任者と登録ヘルパーの3割が介護福祉士有資格者となり、今後サービス提供時間を増やすために中重度者、認知症、看取りの対応を強化するための育成とより高度なサービスが提供できる体制を作る。
- ・ ご利用者にもっと近い存在として必要な情報をヘルパー会議で発信し研修を充実させる。

III. 通所介護

① 目標数字

- ・ 年間の月平均稼働率を82%以上とし、黒字化の安定を目指す。

② 地域密着型通所介護事業所としての役割

- ・ 小規模ならではの個別サービスを継続し、短時間であっても契約者数を増やすことで安定した稼働率と収入を確保する。
- ・ 運営推進会議を利用して地域が求めていることを探り応えたい。
- ・ 地域サロンや老人会への出張デイや地域ケア会議に積極的に参加し、地域での存在をアピールする。

③ 人材育成によるサービスの質の底上げ。

- ・経験のある職員1名が育児休暇に入り経験の浅い介護職員2名となるため、職員の技術、知識を向上させることを目的に内外の研修参加を強化する。
- ・円滑な事業運営を目指すうえで非常勤介護職員を1名採用する。

IV. 居宅介護支援

① 目標数字

職員6名体制となったので、

上期 要介護175名 要支援50名

下期 要介護180名 要支援55名 とする。

② 在宅生活への支援

- ・利用者の高齢化、介護度・認知症状の重度化は深刻化している。異常の早期発見に努め、家族、医療機関と連携を図ることで在宅生活が維持できるよう支援するため日頃から地域の社会資源との関係作りに努める。

③ 居宅介護支援事業所運営の適正化

- ・ケアマネ6名体制を維持し、介護保険法を遵守し適切な請求が行えるよう業務分担を進め業務改善を行う。
- ・平成28年度は職員の増員が遅れ研修に参加できなかったが、平成29年度は専門職としてスキルアップのため研修には積極的に参加したい。

V. 地域包括支援センター

① 目標数字

直轄ケアプラン数

三職種で40件（職員1名につき、最大10件の制限あり。）

予防プランナー1名で上期60件、下期70件

② 地域包括ケアシステム構築の継続的实施

- ・介護予防・日常生活支援総合事業の開始年度となる。自立支援型地域ケア会議において地域包括支援センターとしての役割を発揮する。
- ・地域包括ケアシステム構築の推進力となるように、地域ケア会議の推進、認知症サポーター養成講座の開催、圏域内の病院との連携強化を継続して行う。

③ 地域包括支援センターの周知

- ・六中包括オリジナルの「いつまでもお元気で教室」、サロンや勉強会、まちかど福祉相談所等での出張相談などを継続して行う。
- ・地域へ発信したい情報を盛り込んだ包括新聞を継続して発刊し、掲示板貼付から各戸への回覧に変更するために働きかける。

VI. その他

① 老朽化が進む建物全体の補修計画の作成

- ・外壁を含めた修繕には約 6000 万円が必要とされている。平成 29 年度は屋上の防水処理が老朽化し発生している雨漏りを約 300 万円かけて修繕したい。
- ・また 1 階フロアの床材が浮き粘着テープで補修を続けているが転倒の原因ともなるため約 200 万円かけて修繕したい。
- ・今後の大規模修繕、大規模設備入替計画を立てる。

② 給食業務の見直し

- ・平成 28 年 5 月より委託業者との話し合いによる厨房職員の配置見直しにより業務委託費が 2 万円アップした。黒字運営しているが今後も消費税率の改定や最低賃金アップによる人件費の高騰により値上げが予想される。直営のメリット、デメリットを確認し給食業務の見直しを行う。

③ 隣接地の活用

- ・平成 25 年に購入した約 100 坪の隣接地がある。その活用については地域のニーズを確かめるためセクションリーダーを中心に話し合っている。その中にはケアハウス入居者の高齢化に伴いケアハウスでの生活に無理が生じているご入居者が特養に転居するまでの間に利用できる施設、特技を活かして社会に貢献できる生き甲斐を感じるデイなどの意見が出ている。地域に貢献できる事業との併設なども視野に入れ考えることを継続していく。

平成 29 年度 グリーンヒル淳風 主な行事・行事食予定

月	ケアハウス	デイ	主な行事食
4	花見会	花見週間	花見弁当
5	端午の節句	昼食作り	寿司バイキング
	母の日		
6	父の日	遠足（菖蒲園）	バーベキュー大会
	日帰り行楽		
7	七夕まつり	流しそうめん	流しそうめん
8	納涼会	納涼会	
9	敬老会	敬老会	敬老のお祝い弁当（松花堂）
10	運動会	運動会	ステーキ丼
	日帰り行楽		
11	焼き芋大会	文化祭	料理バイキング
	健康診断・予防接種		
12	餅つき大会	年忘れ会	寄せ鍋
1	お茶会	餅つき	おせち
	新年会		新年のお祝い弁当（松花堂）
2	節分	節分週間	巻き寿司
3	ひな祭り喫茶	ひな祭り週間	ちらし寿司

クラブ活動	生け花の会	毎月 1 回
	カラオケの会	毎月 1 回
	歩こう会	毎月 1 回
	ビデオ映画会	毎月 1 回
	わなげ会	毎月 1 回
	手作りクッキング	毎月 1 回
誕生日会	誕生日毎に個別に開催	
栄養教室	2 ヶ月に 1 回	
紙芝居・朗読	毎月 1 回	
お菓子販売・果物販売	各毎月 2 回	
移動図書	毎月 1 回	
季節風呂	毎月 2 日間	
外食ツアー	毎月 1 回	
買物ツアー	毎月 2 回	
理美容	毎月 1 回	
体重測定	毎月 1 回	
訪問歯科	毎月 1 回	
おくだクリニック往診	毎月 2 回	

グリーンヒル淳風 組織図

平成29年4月1日現在

